

令和5年度 日本大学理工学部 短期大学部（船橋校舎）新入生歓迎式 青木義男理工
学部長 式辞

全文（原文ママ）

理工学部 2121 名・短期大学部 188 名、合わせて 2,309 名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

新入生の方々の多くが高校時代3年間をコロナ禍で過ごし、本来の高校生活を送ることが難しかったのではないのでしょうか。クラブ活動や高校行事で十分な達成感や満足感を得た、友人や先生たちと多くの意見交換ができ、将来の目標が見えてきたという新入生であれば、とても充実した3年間なのであったと思います。本日は、ようやくコロナ禍前、4年前のかたちで新入生歓迎式を実施できることを心より嬉しく思います。

今、この会場には 2,309 名もの新入生が一堂に会しています。上級生や大学院生も含めるとこの4倍以上、すなわち1万人弱の学生が理工学部のキャンパスに通っており、皆さんも卒業までに1万人との出会いの可能性がある訳です。是非、大学生活の中で多くの人たちと出会い、様々な考え方に触れ、自己開発を実践してみてください。

皆さんの中には、明確な将来の目標をもって日本大学理工学部に進学してくださった方もおられる反面、この大学学部に入れる学力だったから入学したという方も少なからずいるのではないかと思います。国の教育関係機関の調査によれば3人に1人が偏差値ベースでの入学生であるとの結果もあるようです。一方、将来の職業については、「自分の能力が発揮できる仕事」や「社会に貢献できることを実感できる仕事」などの回答が多くなっているそうです。大学生活を通じて、このギャップを解消しなければなりません。では大学時代に何を身につけるべきでしょうか？理工系人材の側面からみた考え方についてお話します。

今、世の中では最新の人工知能・AIが注目を集めています。

皆さんも ChatGPT という最近の AI の話を聞いた方が多いと思います。革新的な AI で人間とかなり自然な会話もでき、ChatGPT が運営するラジオ局まで登場しているそうです。AI の革新的な進化によって人の仕事が AI にとって代わられるとといった話もありますが、現時点で確実に AI が人間に勝っているのは既に知られていることや答えが得られていることに対する知識量の多さです。例えば、コンプレキシティ、さまざまな要因が複雑に絡み合っただけ単純な解決策を導き出すのが難しい課題や、まだ答えが見つかっていない問題については、苦手とされています。

つまり、皆さんには大学生活で AI の苦手分野を解決できる能力を身につけて欲しいわけです。基本的には3つの力が必要で、その達成目標を100とすると、私は0を1にできる**構想力**、1を95までデザインできる**応用力**、95を100に昇華させられる**直感力**だと考えています。

応用力は大学の専門分野の授業の中で身につけられますので、授業に真摯に取り組んでください。また、構想力は様々な分野の研究者や友人たちとの学びの中での情報交換や共有体験によって培われていきます。先に申したように、自己開発を意識して実践してみてください。最後の直感力は多くの経験と失敗・改善の積み重ねによってのみ培われるものです。天性の身体能力をもつスポーツ選手でも練習の積み重ねによってのみ結果を残しています。また、ダイソン社の社長のダイソン氏はデュアルサイクロン掃除機を生み出すまでに5126個ものプロトタイプという名の失敗作を制作し続け、本当に良い製品は失敗の繰り返しから生まれるとまで言われています。

理工学部のこのキャンパスには多くの人材と国内最大級の実験施設すなわち体験の場があります。ここで直感力を磨いた校友に大平貴之さんがいらっしゃいます。大平さんは小学生の時からプラネタリウムデザイナーになりたいという目標をもち、大学までその夢に近づける教育環境を模索しました。羽陽曲折ありましたが、理工学研究科を修了し、SONY株式会社を経て、大平技研を設立し、現在では世界的に有名なプラネタリウムデザイナーになりました。卒業後に大平さんと直接お話しした際に、理工学部の何が良かったのか聞いたところ、「教員と実験施設設備を100%利活用できたこと」と言われました。言い換えれば、それだけの人材と施設設備が整っているという意味だそうです。先生方の地道な努力もあって、今では、各学科で学ぶ専門分野で身につけられる応用力以外にも、サブメジャー制度、未来博士工房、セキュリティー・ラボ、ボランティアサークル、ビジネス企画サークル、学生自主創造プロジェクト、公務員講座、教職課程・学芸員課程など多くの選択肢があります。皆さんも是非、理工学部リソースを100%、120%利活用して、直観力を磨いていってください。

結びになりますが、皆さんの大学生活が有意義で実り多きものとなるよう祈念し、卒業時に目的地が明確に定まった船出となるよう心より願い、私の式辞とさせていただきます。

令和5年4月7日 日本大学理工学部長 青木義男